

令和1年度

事業報告(案)

社会福祉法人白老宏友会

指定障がい福祉サービス事業

多機能型事業所 ポプリ

(

..
.

(

目 次

I、総 括	1～3
II、就労継続支援B型事業	3～6
III、生活介護事業	6～7
IV、日常生活支援	7～8
V、健康管理	8～9
VI、給食業務	9
VII、管理業務	9～10
VIII、利用関係状況報告	11
添付資料 年間活動一覧	12～14

I 総括

昨年度を振り返りますと国内においては、5月天皇陛下の譲位により新天皇が即位され、平成から新元号『令和』へと改元され、新たな時代の幕明けとなる歴史の節目に残る1年でした。

白老町においては、国内で5館目となる国立博物館 ウポポイ（民族共生象徴空間）の開設に伴い、国内外から年間観光来所者数100万人が期待され、それに耐えうる玄関口として、北海道振興局、JR北海道、白老町の3者の共同事業において、白老町を訪れる来客者の移動の円滑化や利便性の向上を図るため、駅周辺施設の改修整備をはじめ、列車停車本数の増加、特急列車の停車が決定しました。駅北には、観光協会が運営するインフォメーションセンターが整備され、インバウンドを含む交流人口の増加が想定される中、回遊性の向上、雇用促進（人口増加）を期待し、大町を中心とした飲食店や、民宿施設など新設を含む整備が進められた1年でした。

当事業所については、11月上旬に国立博物館歓迎の広場における出店の採択を正式に受け、『ベーカリーショップななかまど』の姉妹店として『sweets café ななかまど イレンカ』をオープンする事が決定しました。『イレンカ』とは、アイヌ語で『希望』という意味が込められており、法人また、ポプリみんなの希望をのせ未来に向け前進するといった想いを込めて店舗名を命名。2月上旬に建物の引き渡しが行われ、開設に向け準備を進めてきました。

店舗のコンセプトは、『ベーカリーショップななかまど』との差別化を図り、国内外からの来場者また、インバウンドを踏まえた店内構想及び観光客向けのサービスの提供として、これまで就労活動で培ってきた技術を最大限に生かし、北海道産の食材を使用し、テイクアウトを中心とした『スイーツカフェ』の開業に向け、主力製品となる北海道の代表的な食材を使用した『カップチーズケーキ』や、『パイ製品』、『土産製品』の開発と研鑽を進めてきました。また、生活介護で生産している自家焙煎珈琲豆を使用したオリジナルブレンド珈琲やカフェラテ、カプチーノなど全国的に注目されている珈琲マシンを導入し、珈琲製品開発の研鑽も同時に進めてきました。国立博物館内における社会福祉法人の出店は、国内において初の事であり、法人の今後の事業運営にあたり、事業の発展と利用者の活気に繋がると感じています。ウポポイへの出店は、更なる利用者の社会自立、社会参加への機会となり、国内外から集まる来館者との交流や、国の施策にもある多文化共生、地域共生社会の実現に向けた大きな第一歩になることと期待しています。しかし、社会情勢においては、1月中国の武漢より発生したとされている新型コロナウイルスの感染が日本又世界において拡大し、北海道においては、1月下旬に第1例目の感染者が確認され2月末には、北海道知事より緊急事態宣言が発令されました。国又北海道が示す感染防止対策（うがい・手洗い・マスク）に従い、法人全体で予防対策に努めてきました。

運営状況については、10月消費税の増税、軽減税率の施行に伴い、施設、就労会計共に改正に則し研修等を通じて研鑽を積み、準備と適正な会計処理を行いました。

また、10月の北海道の賃金改正に伴い、法人内における賃金改定を行った他、特定処遇改善加算による給料規程の改正を同月より施行しました。

また、昨年度は、オリンピック、パラリンピックの開催が2020年に予定されている関係もあり、1年前倒しでポプリ20周年記念旅行を企画し道内においては小樽、道外は東京と3班に分かれ9月、10月にて実施しました。

災害時対策としては、一昨年の東胆振大震災を踏まえ利用者の安全を重点課題に置き、非常災害時に備え、引き続き地震、津波を想定した避難訓練を実施するなど、白老町消防職員を講師に招き、救急救命講習を全職員で受講し、AED の取り扱いや心肺蘇生法などを学習しました。また、感染症予防や就労活動（食品事業）における食中毒防止、利用者の日常的な衛生保持を目的に、苫小牧保健所より講師を依頼し、利用者向けの食品衛生講習会を継続的に行った他、環境面においては、上記を含む衛生保持のため、毎日の館内消毒及び清掃に留意してきました。新たに口腔内における虫歯、感染症及び疾患予防として、北海道歯科衛生協会に講師を依頼し、歯科衛生講習会を実施しました。利用者においては、口腔内ケアにおける講話と歯ブラシの実践指導を行い、職員については、口腔内における知識や介助用歯ブラシの紹介から適切な歯磨き支援の在り方について学習し、日常支援に取り組んできました。こうした取り組みにより、昨年度は感染症や、インフルエンザ等は蔓延することなく一昨年度に比べ安定した利用率を維持することが出来ました。

職員の体制については、昨年度 4 月より採用となった 2 名の新卒者に加え、10 月に実施した北斗文化学園の実習の受け入れを通じて 2 名の職員を 11 月より採用に繋げることが出来ました。更に国立博物館ウポポイ内の開業に向け、アイヌ民族文化財団が主催したオープニングスタッフ募集による合同説明会を通じて、イレンカ専属の職員 3 名の雇用と内定を年度内に決定することが出来ました。ポプリについては、以前より課題としている近い将来を見据えた定年退職者などを含む予測を立てながら、専門職としての知識、技術の継承などを含め計画的に体制の確保に努めてきました。また、人材育成については、当事業所に限らず法人規模が大きくなるほど、職員のモラルの適正化や職務に対する意識の向上の課題が大きくなってきており、幹部職員をはじめ組織全体で意識改善に努めていく必要があります。人材育成、相互育成を踏まえ、支援の質の向上、安定運営への取り組みを重要視してきました。そのため、法人内においては、キャリアパス研修の他、内部研修（研修発表会、事例発表会）を実施し、一昨年度より正規職員を対象に導入した人事考課制度については、引き続きインセンティブの付与を基本に人材育成を目的とし、職員の状態の把握や、課題の整理、スキルの向上に努めてきました。その他、新任職員研修をはじめ、個々の課題に則した外部研修などを計画的に行ってきました。また、法人、事業所の統制を図るため『報・連・相』の定着、職員の情報の共有の強化、連携、チーム力向上を課題に取り組んできました。

生活介護事業においては、『個別支援』を課題に置き、療育活動、創作活動、知育活動、レクリエーション、生産活動など従来の活動に加え、個々の利用者の特性や体力面を考慮し、新たな活動内容を模索し創意工夫を凝らしながら充足した生活となるよう取り組んできました。利用者の日常的な健康管理や安全面、緊急時の対応として配置している看護職員については、その業務内容を明確化し、毎日のバイタルチェック、健康診断の総括及び、その結果を踏まえた全体の健康管理と基礎疾患を抱える利用者の状態の把握、傷病時などの対応業務等を位置づけました。

また、法人内における看護師間の情報の共有又、連携の強化を図るため毎月看護師会議を実施した他、日常業務の中で支援員が医療的専門分野における知識について学ぶ機会となりました。看護職員の提案による健康療法として免疫力を高める効果のある音読、笑いヨガを毎朝、昼食前に実施してきました。生産活動については、これまで低価格を売りに販売してきた自家焙煎珈琲豆は、原材料等の価格の高騰により既存の価格で販売していくことが困難

となり、消費税の増税等を踏まえ、適正な原価率に見合う価格の引き上げを行い、前年度同様の売り上げを収めることが出来ました。また、これまで地域とのつながり又、地域貢献として障がい者週間に行ってきた『元気まちコーヒー応援チケット』の取り組みについては、昨年度で10年目を迎え、前文にあるように収益また工賃財源の確保により令和元年度をもって終了することとしました。既存の請負作業については、引き続き同法人の『みらいえ』と連携を図り積極的に取り組むなど、その他の生産活動については、前年度並みの売り上げを収めることが出来ました。野草茶製品については、落ち込みが見られ、結果、約400万円の収入を収め、前年度に比べ約50万円減収しています。

また、地域生活支援センターとの連携を図り、定期的なケース会議や情報交換を密にし、安心して充実した生活を送ることができるよう取り組んできました。

就労事業については、売上げの向上、工賃財源の確保、安定経営を目的とし、パン、菓子、餅などの製品開発の研鑽を行ってきた他、各種イベントなどの活動を実施してきました。集客率向上を目的とし宣伝活動を含め取り組んでいる札幌外部販売活動では、月平均2回の出展を継続的に行い、一昨年度より開始したきたキッチン新札幌店も定着してきている他、札幌三越で開催される北海道物産展においても、毎回声を掛けて頂けるようになり、確実に顧客数の増加と共に売上げの向上に繋げることができました。こうした取り組みにより、楽天市場より通信販売のオファーを受け、売上向上を目的にその準備を進めてきました。宣伝活動については、上記に限らず、HPやSNSを活用しタイムリーなお客様への情報提供を行い集客率向上に取り組んできました。また、上記に記載したとおり、ウポポイ（民族共生象徴空間）の出店が決定し、開業に向け準備を進めてきました。

就労活動収入においては、宣伝活動等の効果もあり、週末 地方からの集客が増えてきており、売上については、原価率に則した適正な価格の見直しを行い、実施してきた結果もあり、年度末の新型コロナウイルスの影響による落ち込みに加え、前年度あった阪急バスツアーの受け入れや、町内のお寺の大口の取引がない中、職員全体の努力により、当初目標としていた7,494万円に近い7,465万円の売り上げを収めることが出来ました。

また、目標工賃金額においても、達成し、支給することが出来ています。

設備整備については、国立博物館内出店に係る経費として新規事業積立金3,500万円を取り崩し、施設会計から就労会計へ資金移動を行い、店舗に係る設備整備等に充当しました。この資金においては、貸付とし、計画的に内部返済を行っていく。その他、パソコン、電話設備の更新、業務効率を目的としタブレットの導入、安全対策として防犯カメラの増設、老朽化による玄関マットの張り替え、玄関ホールの照明設備改修工事を実施しました。就労事業については、消費者のニーズに応え切り餅の裁断機を導入した他、国立博物館開設に伴い、国際交流を見据えキャッシュレス機能を備えたレジを導入。また、老朽し更新が必要な機械設備（プレハブ冷凍庫冷却ユニット、ミキサー、ドウコン、洗米機、オープン換気扇）の整備を行いました。

生活介護については、更に充実した活動が行えるように屋外運動場の拡充整備の他、玄関ホールに設置してある展示場の照明設備の他、熱中症対策としてエアコンの設置を行いました。イレンカの出店、楽天通信販売を踏まえ、将来的に自所製品（自家焙煎珈琲豆）のみで工賃財源を確保していくことを目的に珈琲焙煎機の増設を行いました。

ポプリにおいては、新年度一大事業である国立博物館ウポポイ（民族共生象徴空間）の開業に伴う出店の成功に向け、取り組んでいきたいと考えておりますが、新型コロナウイルスの終息は、報道などから鑑み不透明なものであり、引き続き利用者、職員の安全を第一に感染防止対策を課題に置いていきます。

また、法人全体の動きについては、生活介護の需要が高まる中、利用定員は満度に等しい現状にあり、その一方で利用者の高齢化が進んでいる現状を踏まえ、将来を見据えた事業構築又中期計画の策定が求められ、安定した事業の推進を図る為、引き続き人材育成を課題としていきます。

その他については、特段大きな事故もなく充実したサービス提供と適正な運営を行うことが出来ました。

II、就労継続支援B型事業

■就労事業概要

利用者主体の事業形態を前提に定め、就労活動の充実と豊かな生活の提供を課題に置き、利用者工賃還元額の向上と、充実した日中活動サービスの提供に努め、その財源となる就労活動収入の安定と増収を目指し、事業を推進してきました。今年度の当初予算での就労会計目標売上は74,940,000円でしたが、2020年ウポポイ（民族象徴空間）内の歓迎広場にて当事業所が出店する事が決定し、その準備を進めていくための必要経費として積立金を取り崩し35,000,000円の増額補正を行いました。上半期については昨年度に起こった胆振東部地震の影響で中止になっていた神社祭の餅の注文が入った事やイベント販売の参加、消費税増税による価格改定などの他、新作パンの販売や商品の見直しを行いお客さんに寄り添いながら販売を行ってきました。

しかし、阪急交通社バスツアーが行われない事や新型コロナウイルス感染拡大により北海道に緊急事態宣言が発令され、蔓延防止策として不要不急の外出自粛や学校休業などにより、予定していた店舗売上や取引先の注文がキャンセルとなり令和元年度の総収入実績は74,658,708円となりました。利用者工賃につきましては『工賃向上計画』に基づき20,890,564円（前年度実績20,383,074円）を支出し、目標としていた平均工賃月額36,100円に対し一人当たり平均36,142円（前年度35,948円：194円増額）を還元する事が出来ました。

■食品事業

令和元年度については、引き続きお客様に愛される店舗づくりを目指すため「低価格で美味しいクオリティーの高い製品提供」を行い、前年度の店舗売上総額以上の増収を目的に4項目（店舗、製造、喫茶、配達）に分けて課題に取り組んだ他、毎月一回の就労会議で振り返りを行いました。事業運営に係る収入と財源を確保するため揺るぎない事業体系を確立できるよう就労全体が共通認識を持ち協力体制の中で行ってきました。

ポプリ内パン工場については、引き続きパン・菓子・餅製品の製造を行い、店頭販売や卸し販売（病院・学校給食・老人ホーム・保育園等）、外部販売（丸井今井きたキッチン、どさんこプラザ）を行ってきました。製造面においては、お客さんから飽きられないように製品を見

直し、美味しく付加価値のある製品開発を行い販売した他、新年度から始まるウポボイ（民族象徴空間）に出展する新店舗での販売製品（主力製品、お土産製品）を開発し、安定供給が出来るよう環境整備（機械の導入、オペレーションの見直しなど）を行い、生産稼働効率の向上に努めました。また、お客様のニーズに応え、効率的な生産が出来るよう餅切断機を購入し「のし餅」から「きり餅」に切り替えて販売した他、将来的に安定した財源を確保するために、楽天市場（インターネット販売）の準備も進めてきました。

売上の軸となる札幌販売についてはお客さんからの反響も良く好調な売れ行きが続いてきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で札幌市の往来自粛により販売が中止となり、当初見込んでいた売上目標まで達成する事が出来ませんでした。

技術面においては、新商品の開発と安定的な生産供給を図れるよう七洋製作所東京支店に出向いた他、木田製粉社の技術者を招いて製パン基礎講習を実施し基礎技術や知識、新商品アイテムの提案を受けました。

ななかまどでは、引き続き町内をはじめ町外のお客様に喜んでもらえるよう「丁寧」をテーマに开店時間までに出来るだけ多くの商品を店頭で陳列する他、全てのお客様に対して「優しい気持ちで笑顔に明るく接する」「清潔な店舗にする」事を重点課題として取り組みました。季節に合わせたイベントや27周年記念セールを開催しました。27周年記念では、約10種類の新商品を販売した他、店舗隣に特設会場を設け実演販売等を行いました。

また、10月からの消費税増税に伴い軽減税率制度の対応とウポボイ（民族象徴空間）の開業に伴うインバウンド観光対応の為、Airレジ2台の増設とキャッシュレス決済ができるAirpayの導入、仕入れ価格の見直しを行い、新たな商品の価格設定を行いました。

製造面ではお客さんを飽きさせない店舗づくりを意識し、利用者さんと共に創意工夫を凝らしながら季節に因んだ付加価値の高い製品作りを行いました。

以上の事を踏まえ、将来的に利用者が安心して『働ける環境を確立』し、豊かな生活を営むための『工賃財源の確保』を保持していくためにも、民間企業同様の視点を持ち、時代の流れを絶えず察知しながら新しい物に目を向けた事業運営と危機感や探求心を持ちながら取り組む姿勢が不可欠であると考えます。令和2年度については、以上の事を課題に置き、更なる発展が遂げられるように、引き続き全体が共通認識を持ち定期的に課題の整理を行いながら着実に前進していけるよう努めていきます。

1) 利用者支援

利用者主体の就労現場を意識し、利用者個人が就労意識や自立心を高め、就労活動を通じて社会性を養っていきけるような環境づくりに努めました。就労活動において、個人が抱える問題や悩み、また課題を明確にし、利用者一人ひとりが想いを主張し、目的に則した形で活動を行っていきけるように、定期的に利用者会議を行うなど、個人目標を立ててもらい活動を行ってきました。

個別の支援では一人ひとりの障がい特性を理解し、得意とする作業内容を選定し技術の習得と向上に努めました。技術の習得や成長には個人差は見られますが、社会性及び作業性共に個々の成長が見受けられました。

令和元年度については、更に利用者の主体性を高め、同時に作業意欲の向上を目指していくため、新作パンの開発企画として、利用者が考案したパンを職員がサポートしながら開発し、

販売を実施しました。その結果、個人のモチベーションを高め活気に繋げることが出来ました。

2) 衛生保持、危機管理

食品を取り扱う部署としての意識を高めるため、日常的に必要な情報、知識等を適宜周知し食中毒や異物混入の防止に努めました。また安全な食品提供を行うため、作業場内の衛生保持に努め、白衣の点検、うがい手洗いの徹底を図りました。

危機管理においては、基本的に危険な機器を扱う部署でもあるため、機械の使用については職員の許可がある者に限定すると共に、取り扱いの注意を随時促すなど予測できる危険、事故については日常的に職員が目配り事故防止に努めました。

苫小牧保健所の職員を招き、利用者さん向けの食品衛生講習会を開催し、感染症や食中毒予防に対する勉強会を開催しました。

2) 設備整備

ポプリパン工場： ■新店舗に係る設備整備に伴う器具什器の購入。

- ① 電気オープン・・・・・・・・・・1台
- ② 冷凍庫・・・・・・・・・・2台
- ③ コールドテーブル・・・・・・・・3台
- ④ ソフトフリーザー・・・・・・・・1台
- ⑤ 作業台・・・・・・・・・・1台
- ⑥ 一層シンク、2層シンク・・各1台
- ⑦ 冷蔵ショーケース・・・・・・・・1台
- ⑧ 製氷機・・・・・・・・・・1台
- ⑨ 充填機・・・・・・・・・・1台
- ⑩ 洗米機・・・・・・・・・・1台

■作業効率向上と老朽化に伴う設備の更新。

- ①ドウコン
- ②ミキサー
- ③ラベルプリンター（助成金申請にて購入）

■お客さんのニーズと作業効率の向上のために餅切断機を購入。

ななかまど：軽減税率対応とインバンド対応の為、A i rレジとAirpayの導入。

洗い場の蛇口をシャワーヘッドに切り替え。

■給食事業部

就労事業として給食業務の実施を行い、利用者3名の個々に合った作業を提供することにより、技術の習得や責任感が育ち、出勤率の向上を図ることができました。また、給食会議に参加することにより職員との意見交換ができ、作業意欲の向上、社会人としての在り方を考えるきっかけとなりました。その他では、行事食（焼肉、流しそうめん）や誕生食の他、特別食（肥満食、刻み食など）の提供を行いました。また、外部委託給食として一休そばに依頼し本格的なうどんや蕎麦の提供を行いました。

白老東高等学校売店販売用の弁当製造を行い、収益の確保を目指すと共に利用者の主体性

を育むことに重点を置き取り組みました。

作業面においては、安全面に配慮し、衛生管理の徹底を図りました。特に食中毒に細心の注意を払い、手洗い、消毒、適正な処理等、事故防止に努めました。

調理以外の作業として布巾縫いを行い、実生活でも役立つ練習にもなりました。

■施設外就労

令和元年度も施設外就労として総合福祉センターいきいき4・6の清掃事業務と、(有)フォーレ白老にて菌床椎茸の浸水棚上げ作業を行ってきました。フォーレ白老の作業については、ウポポイ（民族象徴空間）の開設に伴い、当事業所が出店することに決定したため2月をもって終了となりました。

① 清掃事業部

白老町より委託事業を請け白老町総合保健福祉センター（いきいき4・6）の日常清掃業務作業の活動を実施しました。地域住民が日常的に利用する公共施設内で行う委託事業であるため、地域との繋がりを大切にし、評価、信用性を第一に意識するなど、業務上における事故防止などの安全に配慮し、日常業務に努めました。また、業務を通じて利用者個人が社会性や自立心を養い、作業技術の向上を図っていくため、月一回の支援者会議を行うなど、日常的に支援、指導を実施しました。

② (有)フォーレ白老

菌床椎茸の浸水棚上げ作業を利用者6～7名、支援員2名体制で、午前の作業とし取り組みました。企業先での活動の為、規律ある行動（挨拶や決まり等）を守り、企業側からの指示に従って活動してきました。また、作業場が滑りやすく狭いため、安全面に留意し、事故防止に努めながら社会性や自立心を持って行動していけるよう支援してきました。

Ⅲ、生活介護事業

個々の障がい特性やニーズに応じて「個別支援」に基づき活動を提供し、安定した日常生活の構築を目指し、支援を実施しました。生産活動では、珈琲豆焙煎・野草茶製造作業、下請け作業等を行う中で過度な負担とならないよう、創作・外出・余暇・療育・知育活動を取り入れる事で作業意欲の維持や向上、気分転換を図り、安心して活動が行える様に支援をしています。また、療育活動の環境を整え、軽運動（電動ウォーカー、エアロバイク等）・外出（散歩・芝生を利用した活動）・知育を主とした活動を行い情緒の安定を目指しました。医療体制では、ポプリ専従の看護師を2名体制で配置をする事で、利用者の健康管理や安全面、緊急時の対応に配慮しています。

【生産活動】

■自家焙煎珈琲

10月の消費増税を見込み、4月末に価格の見直し・変更を実施した為、ななかまど店舗での販売実績の落ち込みや、地域顧客も固定されてきた状況が見られましたが、昨年度と同様

に総額約 150 万円（海の別邸ふる川・喫茶売上も含め）の売り上げが計上されました。

平成 22 年度より開始された事業である「元気まちコーヒー応援チケット」においては、令和元年度で 10 回目を迎え、12 月の障がい者週間に開催された進呈式では、登録団体の 9 団体に 79,800 円を贈呈し、地域とのつながりへ役立てることが出来ました。同事業については、消費増税における収益の減収と利用者工賃の確保の観点から、令和元年度をもちまして終了しました。取引先においては、心のリゾート海の別邸ふる川と年間を通して 45 万円の安定した取引を継続しています。又、札幌での販売では、どさんこプラザ・丸井今井きたキッチンにて販売を継続して行い、更なる顧客の確保と売上に努めました。

国立博物館ウポポイ（民族共生象徴空間）の開設にあたり、歓迎広場での出店が決定されたことから、提供する自家焙煎珈琲の充実と製品販売の拡大の為、新たな焙煎機（3 kg）を増設しました。

■野草茶

10 月の消費増税を見込み、4 月末に価格の見直し・変更を実施した為、ななかまど店舗での販売実績の落ち込みがあり、総額約 60 万円（海の別邸ふる川・固定顧客他）と、減収に繋がっています。また、国立博物館ウポポイ（民族共生象徴空間）の建設に伴い、クマササ茶・カキドオシ茶・黒豆茶の取引がありませんでした。

■フードパックラベル貼り作業

前年度にダイエットクック側より、自社でラベル貼りの機械化を推奨していくため、令和元年度の下請け作業終了といった話がありましたが、年度当初に、しばらくの間、事業継続の打診があり、現在もフードパックラベル貼り作業を「みらいえ」と分担をして行っています。令和元年度も安定した作業委託があり、年間で 436,625 円の売上を計上しました。

■番重拭き取り作業

ライラックフーズ白老より委託を受けて、番重の拭き取り作業を行いました。作業量は少ないものの安定した作業委託があり、年間 57,666 円の売上を計上しました。今後、国立博物館ウポポイ（民族共生象徴空間）の開設にあたり、歓迎広場での出店が決定された事から、自所製品（自家焙煎珈琲、野草茶関連商品）の生産販売の拡大と、それに伴う利用者の作業の安定と効率を考慮し、3 月中旬に当事業を終了しました。

■印刷作業

名刺作成作業では、法人内・役場・町内民間業者を中心に注文を受けています。点字の名刺が多岐にわたって定着してきたものと思われ、今年度は 112,976 円の売上を計上しています。利用者のペースに合わせ、年間を通して定期的な作業を確保する事が出来ました。

以上、昨年度の収入は 3,992,771 円となり、一昨年度収入 4,498,803 円と比較して 506,032 円の減収になっています。また、生産活動において食品を扱うといった観点から、苫小牧保健所の職員を招き、利用者向けの食品衛生講習会を開催し、感染症や食中毒予防に対する勉強会を実施しました。

【創作活動・療育活動・余暇活動・外出活動】

創作活動では「子供の日」「母の日企画」「父の日企画」「ハロウィン企画」「バレンタインデー企画」「ホワイトデー企画」等、季節に合わせて活動を実施しています。共生型事業所「はあもにい」の調理室を利用した「料理教室」では4班に分かれて実施を行い、回数を重ねるごとに調理の技術が向上し、活気のある活動に繋がっているものと感じています。

療育活動については、軽運動（ウォーキング・エアロバイク・電動ウォーカー）や、白老町立温水プールでの水泳、屋外での活動（芝生での軽運動）を実施し、更なる療育活動の充足に努めました。活動時は安全管理・事故防止に努めながら行い、適度な運動時間の確保・気分転換に努めることが出来、情緒の安定につながっています。

余暇活動では、カラオケは4班に分けて苫小牧の「カラオケ Box ゆめつくす」とポプリ2階食堂を使用して、毎月カラオケを実施しています。歌うことで情緒の安定や気分転換にもつながり、余暇の充実を図ることが出来ました。

外出活動は、季節に合わせて「水芭蕉見学」「花見」「果物狩り」「秋季企画」を企画・実施しています。「秋季企画」では、仙台陣屋で紅葉見学と落ち葉拾い、焼き芋を実施しました。焼き芋が出来るまで芝生会場で歌やダンスを行い、大きな声で歌い元気に軽運動を行う事で、情緒の安定や気分転換につなげました。また、1月に行われたポプリ仲間新年会では、現在、朝と昼に実施している読み聞かせや朗読等を利用者全体で披露し、達成感や充実感を得た活気のある活動につなげました。

1月末から新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、感染予防の観点から、2・3月の屋内外の行事や活動についてはリスクが大きく自粛する運びとなりました。

IV、日常生活支援

・基本的な社会生活（挨拶・返事・マナー・ルール）の確立

日中活動を通じて社会的なマナーや身だしなみなどについて毎月一回の全体会や自治会を通して必要な情報を提供し、利用者自ら問題を提起し話し合いが出来るよう支援してきました。

・自治会活動への支援

自治会活動に関しては定期的に役員会を開催し、誕生会や全体会などの企画や運営について利用者主体に実施していけるよう必要に応じてバックアップをしてきました。行事などで役割に当たった方はそれぞれ責任を持って取り組んでいる様子が見られます。

また、今年度も引き続き活気を持って日々の生活が送れるよう月間表彰を行い、個々の頑張りが評価されモチベーション向上に繋がっていきました。

・行事の実施

令和元年度の旅行については、令和2年にポプリ20周年を迎えますが、その年にはウポポイ（民族象徴空間）の開設や国内におけるオリンピック・パラリンピックの開催が重なるため、一年前倒しで20周年を記念した道内・道外旅行を計画し3組に分かれて実施しました。

道内旅行班1組（一泊二日）：小樽方面（にしん御殿、おたる水族館、朝里温泉、オルゴール堂）

道外旅行班2組（二泊三日）：東京方面（上野動物園、ディズニーランド、スカイツリー）

その他の行事としては毎月一回の誕生会、利用者新年会、バーベキュー、流しそうめん等を実施し、それぞれの行事を通して利用者同士の親睦と作業の活力へと繋がりました。時期と内容については下記の通りとなります。

・行事内容

日程	主な行事内容
4月	・新利用者歓迎会（自治会企画・運営） ・就労B 運動レク
5月	・仲間の会総会 ・各部署 花見
6月	・ポプリ全体バーベキュー ・生活介護 果物狩り
7月	・生活介護 果物狩り
8月	・ポプリ全体流しそうめん（ポプリ駐車場にて実施） ・歯科衛生講習会 ・食品衛生講習会 ・工場、給食部 BBQ ・ななかまど、清掃 映画鑑賞
9月	・周年旅行 小樽班
10月	・周年旅行 東京班 ・外部委託給食 一休そば
11月	
12月	・クリスマス会兼忘年会（各部署）
1月	・ポプリ新年会（白老経済センター）（自治会企画・運営）
2月	
3月	・工場、給食部 映画鑑賞
自治会活動	・自治会活動の支援として、利用者が中心となり各種事業を円滑に進められるようバックアップ。 <主な活動> ・毎月一回役員会の実施。 ・新年会と新利用者歓迎会などの企画と運営。 ・毎月一回誕生会と全体会 ・月間表彰の実施。

V、健康管理

年1回の健康診断を実施しました。その他、食後の歯磨き習慣、毎月の体重測定などを行いました。健康診断については、検査結果により、本人、保護者、家族、又GHI利用者は看護師や地域支援センターあぷろと連携しながら必要に応じて再検査や受診を勧めるなど支援を行いました。

インフルエンザ対策（予防接種・室内の保湿）やノロウイルスをはじめとする感染症、特に年度末より流行している新型ウイルスの感染防止策として、マスクの着用や手洗いの励行、毎日の検温、微酸性電解水の噴霧・アルコールによる消毒を行いました。

夏には歯科衛生講習会を利用者さん向け、職員向けに分けて研修を行いました。その後、定期的にブラッシングの仕方や仕上げ磨き、歯ブラシの状態などを確認しています。

また、苫小牧保健所の職員を招き、利用者さん向けの食品衛生講習会を開催し、感染症や食中毒予防に対する勉強会を開催しました。

VI、給食業務

安心、安全な給食提供に配慮し実施しました。利用者への嗜好調査などを実施し、出来る限り要望にこたえ、季節感のある食事や行事食などの工夫を行いました。

給食製造は食品事業給食事業部への作業委託とし、利用者3名に対し職員2名～3名の体制で技術支援を行いながら進めました。

その他では、行事食（焼肉、流しそうめん）や誕生食の他、特別食（肥満食、刻み食など）の提供を行いました。また、外部委託給食として一休そばに依頼しカレーの提供を行いました。

VII、管理業務

日常業務では、業務効率、安定した事業運営のための研鑽を行いながら事務処理の適正化を目指し業務を遂行してきました。法人内部研修（事務部会）を重ねて事業所相互の協力と連携をはかり、様々な課題提起とスムーズな問題解決に繋がるよう取り組みました。

施設管理では、正面玄関入り口のマット改修、玄関ホールの天井改修と照明機器の交換、生活介護棟のエアコン設置、防犯カメラの増設などの営繕を行いました。また、支援員のPC更新とiPad導入で業務の効率化を目指し、老朽化したポプリー電話設備を更新しました。

研修関係では、職員の資質の向上を目指し、各種研修会への派遣を実施しました。障害特性などの専門研修にも派遣し、職員のスキルアップと意識の向上を図りました。研修後には職員会議等で報告を行い、情報の共有や課題提起に繋がりました。

衛生・健康管理面では、毎日朝・夕方の館内消毒（トイレ、共用部分を中心に）を徹底し未然に防ぐよう心がけました。冬季のインフルエンザ流行時期を前に集団予防接種（任意）、微酸性電解水の噴霧等でノロウイルスはじめ感染症の予防強化、加湿器の増設による活動室の湿度保持などの工夫を含め、ポプリー内での感染防止に力を入れて行いました。年度末より流行している新型コロナウイルス感染予防も含めさらに強化し、備品消耗品の確保に努めました。

防災・危機管理に関しては、避難訓練を実施し利用者誘導の際の注意点や問題点を確認し、災害時の安全確保・心得など学習する機会を持ちました。白老町消防より講師を派遣いただき、職員対象に救急救命講習を行い、AEDの使い方や事故時の初動など、利用者の緊急時に即座に対応できるよう学習しました。

広報活動では、従来の法人機関紙の発行、ホームページ、フェイスブック・インスタグラムを活用し店舗商品・イベントの宣伝など当施設の情報を積極的に発信しました。

苦情解決・虐待防止などに関しては、日頃より些細な利用者間のトラブルや悩み、家族の相談などに対し職員が都度時間をおかず直接対応し調整・解決すること、フォローアップを継続して行うことで、苦情としての取り扱いはありませんでした。

実習等に関しては、養護学校等からの体験実習や進路実習などの受け入れを行いました。行政からの紹介による利用者の受け入れも、法人内事業所との連携を図り、面談やケース会議・体験実習を行いながら対応しました。

なお、日中一時支援事業では、養護学校の生徒さんの長期休暇時の利用や、生活介護利用契約に繋がる体験的な利用もありました。

VIII 利用関係状況報告

就労活動	収支	総収入	78,651,479 円 + 積立取崩	3,883,800 円 + 補助金・繰入金	38,643,450 円
		(就労B	74,658,708 円 + 生活介護	3,992,771 円)	
		総支出	91,747,650 円 + 固定資産	25,064,050 円 + 年度末積立	4,367,029 円
工賃支払い総額		23,075,004 円	(前年度実績:	22,490,724 円)	
就労B事業	月額平均額	1名	36,142 円	生活介護	月額平均額 1名 6,742 円

<定員構成>

*2年3月31日現在

	定員	契約数	男	女	入所者	退所者	備考
生活介護	20	27	19	8	4	2	入所: 西川・南川・鈴木彰・土田 退所: 和泉・島田
就労継続支援B	40	49	34	15	3	1	入所: 地本・工藤・青柳 退所: 齋藤あ
合計	60	76	53	23	7	3	

<年齢構成>

	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
生活介護	0	9	9	4	4	1
就労B	0	11	8	23	5	2
合計	0	20	17	27	9	3
最高齢者 70歳 / 最年少者 20歳 / 平均 39.00歳						

<在籍年数>

入所年度	1	30	29	28	27	26	25	24	23	22
生活介護	2	2	2	1	2	3	1	1	0	2
就労B	3	0	1	2	1	0	3	0	2	1
合計	5	2	3	3	3	3	4	1	2	3

平均

生活介護 9年 2か月

就労B 14年 1か月

入所年度	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
生活介護	1	1	0	2	1	0	0	0	3	3
就労B	4	0	1	0	2	3	1	1	11	13
合計	5	1	1	2	3	3	1	1	14	16

<障害区分>

療育手帳	A	B	なし	精神	身障
生活介護	17	9	1	(2)	(4)
就労B	12	37	0	(0)	(5)
合計	29	46	1	0	(10)

区分	2	3	4	5	6
生活介護	0	5	11	7	4
就労B					
合計	0	5	11	7	4

<居住別>

	自宅	GH
生活介護	13	14
就労B	24	25
合計	37	39

生活介護平均区分 4.37

<出身地別>

	白老町	登別市	苫小牧	札幌市	室蘭市	千歳市	江別市	伊達市	三笠市	浦河町
生活介護	15	1	9	1	0	0	0	0	1	0
就労B	23	6	8	2	5	1	2	1	0	1
合計	38	7	17	3	5	1	2	1	1	1

令和1年度の動向

	施設業務関係	就労・生活事業関係	各種研修・行事その他
4月	<p>辞令交付式 永年勤続表彰並びに新任職員歓迎会 各種会議（支援会議、ケース会議、幹部会議、職員会議、部署会議、給食会議、看護師会議、運営会議、管理者会議） 会計事務所任意監査</p>	<p>利用者30年度期末手当支給 カラオケ・プール・映画鑑賞・料理教室・創作活動・水芭蕉見学 どさんこプラザ・きたキッチンオンライン販売 苫小牧イオン販売、余暇活動（運動レク）</p>	<p>新利用者歓迎会（昼食時） 利用者全体会 利用者誕生会 家族の会役員会</p>
5月	<p>法人監事監査 理事会 各種会議</p>	<p>よもぎ採取 さくら見学・創作活動・カラオケ・プール・映画鑑賞 ゴードルデンウィーク店舗営業 きたキッチンオンライン、新札幌販売 花見</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 家族の会総会 軽減税率説明会・介護福祉会研修 新任職員研修・キャリアアップ初任者研修 福祉人材育成講座 レオン自動機パン技術講習</p>
6月	<p>各種会議 評議委員会 防火設備点検 健康診断</p>	<p>創作活動・カラオケ・プール・映画鑑賞・料理教室・果物狩り ウエムラ感謝祭販売・草刈り作業 白老牛肉まつりBB販売 きたキッチンオンライン、新札幌販売・三越販売</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 屋外給食（バーベキュー） 胆振圏域福祉人材育成講座 介護職員専門研修・7月1日「ライブコミュニケーション」研修 キャリアアップ研修 東京・福岡視察研修 日胆支援研・日胆ハコ・7月7日交流会 クリーン作戦</p>
7月	<p>各種会議 会計事務所任意監査 オンラインブズマン来所</p>	<p>カラオケ・プール・映画鑑賞・料理教室・果物狩り どさんこプラザ・きたキッチンオンライン販売 ななかまど夏のフェア実施</p>	<p>利用者全体会 利用者誕生会 胆振圏域福祉人材育成講座 相談支援従事者研修・新任経理担当者研修 看護師専門研修・OJT養成講座 エルガーセンター研修 消費税講座・総務担当者専門研修 権利擁護指導者養成講座 クリーン作戦 経専実習生受け入れ</p>

8月	各種会議 ボプリーななかまど臨時休業(11日) 法人監事監査 衛生協会巡回	利用者夏期手当て支給 プール・カラオケ・映画鑑賞・創作活動・料理教室 ご近所野菜市販売・振興会ピアガーデン きたきキッチンオーロラ、新札幌販売 余暇活動(BBQ映画鑑賞)	利用者全体会 利用者誕生会 屋外給食(流しそらめん) 歯科衛生講習会・保健所衛生講習会 キャリアアップ初任者研修・消費税改正セミナー 医療大学インターナショナルシップ受入 日胆支援研
9月	各種会議 理事會 会計事務所任意監査 救命救急講習 前期モニタリング会議 周年旅行道内班 正面玄関照明工事	カラオケ・映画鑑賞・だて食フェス販売 ななかまど27周年記念セール ご近所野菜市 きたきキッチンオーロラ販売 バイク人販売	利用者全体会 利用者誕生会 胆振圏域福祉人材育成講座 BCP策定研修 札幌パブック視察・東京視察
10月	各種会議 救命救急講習 周年旅行道外班 正面玄関天井改修 胆振総合振興局集団指導 ウポポイ出店に係るブレゼン	料理教室・プール・カラオケ・創作活動 きたきキッチンオーロラ販売	利用者全体会 利用者誕生会 全道知的障がい者関係職員研修 北斗文化ア카데미実習受入
11月	各種会議 会計事務所任意監査 インフルエンザ予防接種	プール・カラオケ・料理教室 どさんこプラザ・きたきキッチンオーロラ販売 白老中職場体験受入	利用者全体会 利用者誕生会 胆振圏域福祉人材育成講座 事情解決講習会 法人内部研修(研修報告会) ウポポイ座談会
12月	各種会議 消防設備点検 法人監事監査 年末挨拶回り	各部署忘年会企画 利用者冬期手当て支給 元気町応援ローヒーヒーチケット還元 プール・カラオケ お歳暮餅事業・年末餅事業 札幌年末餅販売 どさんこプラザ きたきキッチンオーロラ、新札幌販売	利用者全体会 利用者誕生会 ウポポイ調理体験

1月	各種会議 年頭所感 会計事務所任意監査 支援計画にリテグ会議	保護者・仲間の会合同新年会 カラオケ・プール・料理教室 なななかまど初売り 札幌三越販売・きたキッチン販売	利用者全体会 利用者誕生会 整備管理者選任前研修 ウポポイ事業者説明会(求人)
2月	各種会議 支援計画にリテグ会議 三者面談	生) プール・カラオケ・料理教室・パレントリーン企 画 就) なななかまどパレントリーンフェア きたキッチンオーロラ、新さつぼろ販売 イレインカ機材搬入開始	利用者全体会 利用者誕生会 仲間の会節分・パレントリーン 法人研修実践発表会 七洋菓子研修
3月	各種会議 会計事務所巡回監査 法人内部監査 三者面談実施、利用契約	各種見積提出 たな卸し プール・カラオケ・映画鑑賞 冬季レクリエーション・ホワイトデー企画 就) どさんこプラザ・きたキッチン	利用者全体会 利用者誕生会 仲間の会ホワイトデー
4月		利用者1年度期末手当支給	